

5月・6月の管理ポイント

平成25年5月9日



株式会社 トモグリーンケミカル

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第123号

5月、6月は梅雨から夏に向けての準備として、グリーンの根を伸ばしておく時期です。3月は低温が続く、芝の生育にも出遅れ感がある中、土壌の透水性、通気性を高めて、育ちやすい環境を整えていきましょう。



レボ (REVO)

5月の生育期、6月の排水対策に...

5月は芝生の根をしっかり伸ばす大切な時期です!!

レボにより表層を乾き気味、土壌中は気相をしっかりと確保した状態にキープし、芝生の発根を促しましょう。

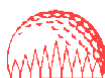
土壌中を乾燥気味にして、根に軽いストレスを与えたほうが根が下方まで伸びていきます。

散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして

一度に十分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなります。

6月は、梅雨のため土壌が飽和状態になります。レボ処理で余分な水を排水させましょう。

使用量：レボ 2ml/m² 散布水量：200ml～1L/m² 散布回数：1ヶ月に1回



光合成細菌、サッチ・リムーバー

グリーンの通気性改善に...

梅雨前の更新作業時に**光合成細菌**と**酵素剤サッチ・リムーバー**を組み合わせることによって、サッチを効率よく分解し、通気性の良いグリーンをつくりましょう。

光合成細菌 使用量：1～2cc 1ℓ/m²散布 月1～2回

サッチ・リムーバー 使用量：1～2g/m² 0.5ℓ/m²散布 使用回数：月1～2回



サッチ・マネージャー

サッチ層の除去には...

本剤は、自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある有用菌(野生株)を選抜した微生物資材です。16種類の有用菌(乳酸菌11種、枯草菌3種、酵母菌2種)で構成されており、製剤1g当たり約400億個の菌が配合されておりますので、土壌中でも安定した効果が期待できます。

殺菌剤を多用するグリーンには**酵素剤サッチ・リムーバー**、ラフ・FWには低価格の**サッチ・マネージャー**の使用がおすすめです。

使用量：ラフ・FW 0.1～0.2g/m² グリーン 0.5g/m² 散布水量0.2～0.5ℓ/m²



タフスティングァーFL

害虫発生にあわせて...

ゴールデンウィーク以降のグリーンには、タマナガ幼虫、シバツトガ幼虫の連続発生が予想されます。また、この時期はコガネムシ幼虫も蛹化前で、活発に動いている時ですから、ネオニコ(イミダクロプリド)+ジアミド(フルベンジアミド)系の新規長期残効型殺虫剤タフスティングァーフロアブルを使用しましょう。両成分とも耐雨性に優れ残効性が長いので、安心してご使用していただけます。

使用量：タフスティングァーFL 0.1ml/m² 200ml/m²散布



グリーンメカ、マリソパワー

日照不足を補うために、芝生や有用菌のエサとして...

梅雨は日照不足にともない、芝生の光合成が低下していきます(糖類生成量減少)。また過湿土壌からくる酸素不足により、根の活性も落ちてきます。黒糖、各種ミネラルの豊富な**グリーンメカ**で不足しがちな糖類を補ってあげましょう。

光合成細菌と**マリソパワー**を組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いドブ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。

使用量：グリーンメカ 5～10ml/m² 1ℓ/m²以上 マリソパワー 2～4ml/m² 1ℓ/m²以上

クロロフィルを用いた実験

今回は、植物の持つ光合成色素クロロフィルについて触れてみたいと思います。クロロフィルは葉緑素とも呼ばれ、葉っぱの緑色のもととなっている色素で、光合成に必要不可欠な物質です。

Wikipediaのクロロフィルの項の書き出しには、

“クロロフィル (Chlorophyll) は、光合成の明反応で光エネルギーを吸収する役割をもつ化学物質。”とあります。つまり、光エネルギーを吸収するのはクロロフィルの持つ性質であり、溶媒中に抽出されたクロロフィルも光エネルギーを吸収するということです。この性質を利用してクロロフィル溶液に強い光を当てると、下の写真のような面白い現象が見られます。



クロロフィル溶液に
強い光を当てると...



溶液が赤く光る！！

葉っぱの中であれば、クロロフィルが吸収した光エネルギーは糖を作る反応に利用されますが、抽出溶媒中では糖を作る反応は進みません。クロロフィルが吸収した光エネルギーは行き場を失い、再び光として放出されるのですが、その時赤い光として放出されるため写真のような現象が起こるそうです。

最近、ベントグラスの刈芝中のクロロフィルを抽出して量を測定する作業を行っています。その過程でクロロフィルに関する文献を調べていたところ上のような実験が紹介されており、実際に自分の目で確かめてみたいと思って実験してみました。メタノールやアセトンなどの抽出溶媒があれば簡単にできる実験なので、興味がある方はやってみてください。